

1 頬はなぜたるむのか

サフォクリニック院長

白壁征夫

SHIRAKABE Yukio

1 はじめに

これまで顔の老化は、顔を横に3等分して、額を中心とした上3分の1、鼻を中心とした中3分の1、口を中心とした下3分の1の3部門に分けて説明されてきた。しかし、2004年にThierry Besins¹⁾は、この顔面横割り分割を、縦割り3分割にすることで、顔面の老化について以下のように容易に説明がつくようになったと報告した(図1)。

Sector 1：顔の中央部で、脂肪は少なく、骨がベースであるため、眉間とオトガイのシワ以外に老化症状は認められない

Sector 2：加齢により滑り落ちる部位で、支持組織がほとんどないため、眉尻から顎にかけて、顔の筋肉と脂肪の皮下組織で構成され、これらの組織がスライドして下垂する。この下垂する組織はSector 2内部だけでみられる

Sector 3：顔のあらゆる層と深層でからみあっており、表在性筋膜(superficial musculo-aponeurotic system；SMAS)の線維部分で、生理学的に固定が強いエリアと言える

この報告をもう少し具体的にわかりやすくするため、筆者が70歳当時の座位と臥位の正面写真を用いて解説する(図2)。まず、図2Aのように、Sector 1とSector 3を出し、Sector 2を隠した写真では、それほど老化の症状は認められない。しかし図2B、Cのように、Sector 2だけを露出した座位と臥位の顔はまったく別人の印象となる。顔面側面の座位と臥位を比較すると、い

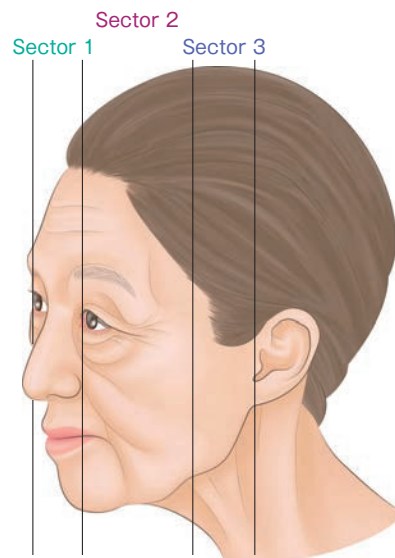


図1 顔面縦割り3分割(Thierry Besins)

Sector 1：顔の中央部で、鼻、口の中央部、顎、額の中央部があり、骨の隆起と短く強い筋肉で固定され維持しているのでたるみがない。

Sector 3：線維状に発達したセクターで、顔のあらゆる層と深層でからみあっており、表在性筋膜(SMAS)の線維部分で、生理学的に固定が強くなっているのでたるみがない。

Sector 2：加齢により滑り落ちる部位で、支持組織がほとんどないため、眉尻から顎にかかる顔の筋肉と脂肪の部分でこの組織がスライドして下垂する。顔のたるみの約80%はこのSector 2内部で認められる。(筆者提供/©Medila Gallery)

かに頬の部分が伸びているか、また座位ではこの部分が下垂していることは明らかである。したがって、顔のたるみの老化症状の約80%はこのSector 2に集中していると言える。これらの座位と臥位からみられる変化は、ほとんどが重力による下垂によるものである。この座位と臥位との老化症状を起こす原因となっている皮下組織が